

感謝を込めて

岸 典子（旧姓 鳴田）

「親嶋会にも女性幹事が欲しいので何とか手伝ってもらえnderうか？」元上司の魚橋さんからの電話に驚きを隠せなかった。親嶋会といえば雲の上の人達の集まり。私で良いのだろうか？「はい」と答えたものの、その日から緊張はピークとなった。

後から分かったことだが、夫を亡くし落胆している私を何とか元気にさせようと、幹事一人一人にどうか私を幹事として迎え入れて欲しいとお願いして回ってくださったそう。その話を聞いて私は涙がこぼれた。仕事に厳しい上司はどこまでも人に優しい上司である。さかのぼること何十年。初めて見る IBM 大阪本町事業所は、まるでゴジラのようにそびえ立ち、その大きさに、まだうら若き私は足がすくんでしまった。入社出来た奇跡から退職までコピーをすれば紙つまりを起こす不器用な私を、会社が先輩諸氏が育ててくださった。

「孫が FBI に入社した?!」と驚いた祖母も亡く、お正月の賢島保養所利用を楽しみにしてくれた両親も見送った。人生でいろいろな局面を向かえ押しつぶされそうになる時、IBM の社員であったという自信と誇り。それが私を奮い立たせる。だからこそ間違ったことは出来ないという生活信条にもなっている。